

問1 奈良時代の中頃、疫病の流行や政治の混乱が続いたことを背景に、聖武天皇が仏教の力によって国家の安定を図ろうとした考え方を何と呼ぶか。また、その考えに基づいて全国各地に建立された寺院の組み合わせとして正しいものを選べ。（2024年 神奈川県 公立入試 類似）

1. 鎮護国家の思想に基づいた国分寺・国分尼寺 2. 浄土信仰に基づいた阿弥陀堂 3. 神仏習合の思想に基づいた神宮寺 4. 禅宗の思想に基づいた公認の五山

問2 七百年に平城京へ都が移ってから七百九十四年に平安京へ都が移るまでの期間、当時の天皇が「鎮護国家の思想」に基づいて実施した政策として、正しいものはどれですか。（2023年 高知公立入試 類似）

1. 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立させ、都に大仏を造立した 2. キリスト教の布教を禁止し、寺請制度によって民衆を寺院に登録させた 3. 貴族の権力争いを防ぐため、武士を登用して警備を強化した 4. 全国各地に神社を建て、天照大神を祀ることで国家の統一をはかった

問3 古代の律令制下における土地と人民の管理について、戸籍と班田収授法の関係性を説明した文として、正しいものはどれですか。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 戸籍は税を徴収するための基礎資料であり、そこに登録された6歳以上の者に口分田が与えられた。 2. 戸籍は兵役を逃れるための証明書として機能し、成人男性のみに口分田が割り当てられた。 3. 戸籍に登録された者は土地の売買が自由になり、国への返還義務も免除された。 4. 戸籍は貴族の家系を証明するために作成され、一般の農民には口分田は与えられなかった。

問4 東大寺の正倉院には、ペルシャ（現在のイラン付近）を起源とする文様が施された楽器や、ガラス製品などが収められています。これらの宝物が、当時の日本にもたらされた歴史的背景として最も適切な説明を選びなさい。（2018年 山形公立入試 類似）

1. 遣唐使の派遣などを通じて、シルクロードを経由した西アジアやインドの国際的な文化が、唐から日本へと伝わったため。 2. 平氏が進めた日宋貿易によって、宋から大量の青磁や白磁、銅銭が輸入されるとともに、最新の印刷技術が伝わったため。 3. 足利義満が開始した勘合貿易により、明から銀や銅などの対価として、書画や刀剣が日本に大量に持ち込まれたため。 4. 元寇の際、捕虜となったモンゴル兵や高麗兵から、大陸の優れた工芸技術や軍事的な知識が日本各地に普及したため。

問5 奈良時代の平城宮跡からは、当時の税制度の実態を示す史料が多数発見されています。地方から都へ送る産物に付けられた荷札として、送り主の住所や品目などが記された木製の板を何と呼びますか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 木簡 2. 年貢 3. 関銭 4. 鉄券

問6 律令制のもとでは、政府が民衆を把握するために「戸籍」が作成され、それに基づき「口分田」が与えられました。この仕組みにおいて、収穫した稲の約3%を納める「租」のほかに、地方の特産物を納める税と、都での労役の代わりに布を納める税が課されました。これら二つの税の名称として正しい組み合わせを選んでください。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 調と庸 2. 租と庸 3. 防人と調 4. 公事と夫役

問7 聖武天皇が平城京に東大寺を建立し、金堂内に銅で作られた巨大な大仏（盧舎那仏）を造立した目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため 2. 遣唐使の派遣を停止し、大陸の影響を受けない日本独自の文化を確立するため 3. 藤原氏などの有力貴族の勢力を抑え、天皇による中央集権体制を誇示するため 4. 武士の台頭に対抗するため、寺院に独自の軍事力を持たせて都を警護させるため

問8 702年の筑前国嶋郡川辺里の記録のように、律令国家において6年ごとに作成され、家族の氏名や年齢を把握して口分田を与えるための基本台帳となったものはどれか。（2023年 青森県公立入試 類似）

1. 戸籍 2. 計帳 3. 風土記 4. 出挙

問9 奈良時代の土地所有の状況を示す記録において、この時代以降、貴族や寺院による大規模な私有地が拡大していく様子が確認できます。墾田永年私財法によって成立した、これら私有地の名称として正しいものはどれですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 荘園 2. 国衙領 3. 寄進地系荘園 4. 口分田

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鎮護国家の思想に基づいた国分寺・国分尼寺	聖武天皇は、相次ぐ政変や天然痘の流行といった社会不安を取り除くため、仏教の力で国を守る「鎮護国家」の思想を重視しました。この政策の一環として、全国に国分寺・国分尼寺を建てるよう命じ、平城京には総国分寺として東大寺を創建して大仏を造立しました。
問2	答え 1 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立させ、都に大仏を造立した	聖武天皇は、仏教による国家の安定を具体化するため、全国の諸国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じました。また、その総本山的な役割を果たす東大寺を都に建設し、巨大な盧舎那仏（大仏）を造立することで、仏教の加護を受けようとした。
問3	答え 1 戸籍は税を徴収するための基礎資料であり、そこに登録された6歳以上の者に口分田が与えられた。	律令国家は6年ごとに「戸籍」を作成し、人々の年齢や家族構成を把握しました。この戸籍に基づいて、6歳以上の男女に一定の面積の「口分田」を与え、そこからの収穫物（租）を税として納めさせる仕組みが班田収授法です。この制度は国家が農民を管理し、財政を支えるための根幹となる仕組みでした。
問4	答え 1 遣唐使の派遣などを通じて、シルクロードを経由した西アジアやインドの国際的な文化が、唐から日本へと伝わったため。	奈良時代は遣唐使が頻繁に派遣され、当時の世界最大の都市であった唐の長安から、シルクロードを介した国際的な文化が日本に流入しました。この時期の文化は天平文化と呼ばれ、正倉院に収められた宝物はその「シルクロードの終着点」としての日本の姿を象徴しています。
問5	答え 1 木簡	奈良時代の平城京などから出土する木札は木簡と呼ばれ、紙が貴重だった当時、荷札や伝言、記録用のメモとして広く活用されていました。特に地方から都へ納められる「調」などの税に付けられた木簡には、現在の佐賀県にあたる肥前国から「綿」が送られたことを示す記録などが残されており、律令国家の徴税の仕組みを裏付ける貴重な史料となっています。
問6	答え 1 調と庸	律令国家の税制では、6歳以上の男女に与えられた口分田に対して課される「租」のほかに、成人男性の負担として、地方の特産物を納める「調」と、年間10日の都での労役（歳役）に代えて布を納める「庸」がありました。また、これら以外にも九州北部の警備にあたる「防人」などの兵役も課されていました。
問7	答え 1 仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため	聖武天皇が発した「大仏造立の詔」には、広く国民の協力を得て仏教の力で世の中を安定させたいという願いが込められていました。当時は天然痘などの疫病が猛威を振るい、多くの犠牲者が出ていた背景があります。この巨大な造立事業には、政府から弾圧を受けていたものの民衆から絶大な支持を得ていた僧の行基も協力し、国家的なプロジェクトとして進められました。
問8	答え 1 戸籍	班田収授法を実施するために作成された台帳である。6歳以上の男女を把握し、口分田を班給する基礎資料として機能した。計帳は調や庸を徴収するために毎年作成されたものであり、区別が必要である。
問9	答え 1 荘園	墾田永年私財法が制定されると、豊富な財力や労働力を持つ貴族や大きな寺院が競って大規模な開墾を行い、広大な私有地を形成しました。これが「荘園」の始まりであり、後の時代の社会構造にも大きな影響を与えました。